

伸銅品

平成17年度上期の生産量は493千トンと4期振りの50万トン割れとなった。下期の見通しは、銅板条は半導体が回復基調で、海外需要を中心に立ち上がり期待される。自動車向けは高水準維持で、他低調な分野を下支える。銅管はルームエアコンの立ち上がり厳しい他パッケージも勢いに欠ける中、輸出が僅かに戻す程度。黄銅板条は車載用コネクタ強く、民生用コネクタも回復だが、一般品の低水準で上期並み。黄銅棒は受注が低迷している。自動車の堅調やガス機器のシーズン入も、水栓金具やバルブの低迷が続く。青銅板条は携帯電話・デジタル家電等の回復と輸出増で底離れが期待される。これらの結果、下期合計は50万トン、17年度では99万3千トン、前年度比3.3%の減少、3年振りの百万トン割れとなる見通しである。

一方、中期需要見通しでの平成21年度生産量は100万6千トン、近年では高かった16年度比較では年率0.4%の減少だが足元17年度以降は伸びを見通した。銅板条はアジア地区でのパソコン・携帯電話の拡大、電子機器の普及と搭載率の上昇でトータルで伸びを見込む。銅管はエアコンの国内需要は変化しないものの、当面海外持ち帰り品の増加による国内生産台数の減少で漸減傾向。黄銅板条はコネクタの車載拡大で伸びるが、民生用の薄肉化等で微減、一般品は弱含み。黄銅棒は底堅い分野もあるが、水栓金具やバルブなど主力の製品での輸入を含めた懸念材料があり、弱含みが予想される。一方、環境規制強化に伴う鉛レス・カドミレス材など新素材の需要拡大が期待される。

青銅・その他分野は電子機器の市場拡大とコネクタの小型化といった拡大と縮小要因が拮抗しているがアジア地区での需要の拡大など輸出の増加という形で増加を見込んだ。

電線

平成17年度の改訂銅電線需要見通しは85万1千トンで、対前年比+2.9%、3年連続して前年を上回ると予測した。GDPの伸びに示されるように日本経済は回復基調にあり、企業の業績改善に伴う民間設備投資が好調であることなどが電線需要増加の要因である。部門別には以下の通り。

通信部門は、NTTのメタルケーブル投資圧縮で漸減傾向が続いているが、当面大幅な減少は少ないと見られる。

電力部門は、電力会社の設備改良計画が一部具体化の動きがあり、12年振りに増加に転ずる見通しである。

電気機械部門は、設備投資やIT関連、電装品は好調であるものの、家電関連は国内生産の伸び悩みが見込まれ、全体では前年度並みと予測した。

自動車部門は国内生産台数は1,070万台に達する見込みで、電線需要も高い水準を維持すると予測した。

建設・電販部門は、民間設備投資の高い伸びが見込まれ、かつ足元の電線出荷も好調であるところから、前年比+3.5%、1万3千トンの増加と予測した。その他内需部門も同様に民間設備投資と関連が深く、好調に推移する見込みである。

輸出部門は、輸出環境は厳しさが続くものの、足元アジア・北米向け好調であることから若干増加すると予測した。

中期的には、今後日本経済は緩やかな成長が維持するとの見方から、電線需要も5年間の平均伸び率+0.4%、平成21年度は86万6千トンと、若干増加するものと予測した。

鉱山

平成16年度の我が国の銅地金生産は前年度比3.5%減の137万8千トンと平成11年以來の140万トン割れとなった。前半にかけての買鉱条件の悪化原料精鉱の品位の低下、一部製錬所の一時的な操業停止や大型定修などがその理由であった。

消費は報告値が1.7%増の119万9千トン、過欠補正を加味した見掛値は123万7千トンで0.2%減少した。

平成16年の我が国経済は世界的な景気拡大を背景に企業収益の大幅な増加、設備投資の増加、失業率の低下、個人消費の回復、不良債権・過剰債務の改善など回復基調を辿ったが、年後半には海外経済の減速、情報関連材の在庫調整局面に入り、原油高の影響を受け、実質成長率は1.9%と前年度の2.0%に比べ鈍化した。

こうした経済環境のもと、銅の主要な需要産業のうち建設業は官公需が引き続き低迷を余儀なくされた反面、首都圏ではインテリジェンスビル建設ラッシュに沸いた。自動車は内需、輸出ともに好調を維持した。電気機械はデジタル家電、半導体などのIT関連需要が輸出向けを中心に減少したことから生産、在庫調整局面入りした。

電気銅の用途別消費(報告値ベース)は、電線向けが1.0%増の73万6千トン、伸銅品向けは4.1%増の44万1千トンとそれぞれ2年連続、3年連続の増加となった。なお、伸銅品向けの消費増には銅スクラップ不足に伴う代替需要増加という側面もある。

国内需要が横ばいであったのに対し、国内生産は減少したことから、輸入は8.4%増の8万5千トンと9年ぶりに増加した。輸出は23.9%減の20万7千トンと3年連続の減少で、9年度以來の低水準にとどまった。

この結果、在庫は10万7千トンから12万7千トンへと18.2%増加したが、在庫/消費比率は5.3週間分と適正水準であった。

平成17年度改定見通し及び21年度中期見通し 単位:千トン

部門	年度	16年度実績	17年度			前年比%	21年度見通し	年率%
			上期	下期	合計			
銅	板条	268	135	138	273	1.8	289	1.5
	管	187	87	88	175	6.7	165	2.5
	棒	40	19	19	38	3.6	38	0.8
	線	6	2	3	5	8.2	5	1.8
黄銅	板条	149	72	71	143	4.0	141	1.1
	管	16	8	8	16	3.6	15	1.7
	棒	250	116	117	233	7.0	234	1.3
	線	39	19	19	38	2.9	37	1.3
青銅	板条	53	26	28	54	1.6	59	2.1
	棒線	5	3	2	5	0.3	6	2.0
洋白他	13	6	7	13	1.9	16	4.0	
合計	1,026	493	500	993	3.3	1,005	0.4	

(注)前年比は数量を丸める前の原伸び率。
(出典)実績は経済産業省、見通しは日本伸銅協会

平成17年度改訂需要見通し・平成21年度中期需要見通し 単位:千トン

部門	年度	16年度実績	17年度改訂見通し			前年比%	21年度見通し	前年比%
			上期	下期	合計			
通信	18.6	9	9	18	3.2	16	2.9	
電力	67.0	34	38	72	7.5	77	1.7	
電気機械	205.4	101	106	207	0.8	212	0.6	
自動車	79.2	40	41	81	2.3	79	0.6	
建設・電販	367.3	185	195	380	3.5	390	0.7	
その他内需	58.8	30	31	61	3.7	62	0.4	
内需計	796.4	399	420	819	2.8	836	0.5	
輸出	30.5	16	16	32	4.9	30	1.6	
合計	826.9	415	436	851	2.9	866	0.4	

(注)四捨五入のため計と合わない場合もある。
(出典)日本電線工業会統計

銅地金需給実績 単位:千トン

部門	年度	13年度実績	14年度実績	15年度実績	16年度実績			16/15%
					上期	下期	合計	
期初在庫	113.6	113.8	112.8	107.4	117.3	107.4	4.8	
生産	1,405.0	1,413.8	1,428.0	679.3	699.0	1,378.3	3.5	
国内輸出	0.2	0.6	1.9	0.5	0.2	0.7	63.2	
海外輸出	1,263.1	1,222.8	1,233.7	584.3	609.2	1,193.5	3.3	
その他出	141.7	190.4	192.4	94.5	89.6	184.1	4.3	
輸入	138.1	107.4	78.3	45.5	39.4	84.9	8.4	
供給計	1,656.7	1,635.0	1,619.1	832.2	855.7	1,570.6	3.0	
内需(報告値)	1,095.5	1,141.8	1,179.3	605.3	593.7	1,199.0	1.7	
(見掛値)	1,089.6	1,185.3	1,239.5	622.5	614.0	1,236.5	0.2	
電線	721.3	708.8	728.6	365.3	370.6	735.9	1.0	
伸銅品	349.8	405.7	423.5	227.0	214.0	441.0	4.1	
その他	24.4	27.3	27.2	13.0	9.1	22.1	18.8	
輸出	453.3	336.9	272.2	92.4	114.7	207.1	23.9	
需要計	1,548.8	1,478.7	1,451.5	697.7	708.4	1,406.1	3.1	
期末在庫	113.8	112.8	107.4	117.3	127.0	127.0	18.2	
過欠補正	5.9	43.5	60.2	17.2	20.3	37.5		
設備能力	1,496.4	1,496.4	1,518.9	763.2	763.2	1,526.4	0.5	
稼働率%	93.9	94.5	94.0	89.0	91.6	90.3		
再資源化率%	10.1	13.5	13.5	13.9	12.8	13.4		

(出典)経済産業省